

平成 21 年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成 21 年 8 月 19 日
舢倉診療所長 津山 翔

平成 21 年度舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成 21 年 8 月 1 日（土）、2 日（日）の両日に亘って実施されました。関係者の方々のご尽力により無事に予定通り終了致しました。お力添えをいただいた皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、眼科、内科、整形外科、上部消化管内視鏡」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

平成 21 年 8 月 1 日（土）午後 1 時～午後 5 時

8 月 2 日（日）午前 8 時 30 分～正午

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山 1-4 舢倉島総合開発センター

玄関ロビー：受付

診察室：上部消化管内視鏡

検査室：整形外科、レントゲン撮影

コンピュータ室：耳鼻咽喉科

保育室 1、2：内科

事務室：眼科

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師	(小森耳鼻咽喉科医院)
	間谷 章代	看護師	(県立中央病院)
眼科	山村 敏明	医師	(やまむら眼科医院)
	橋野 聖来	保健師	(輪島市役所)
内科	堀田 祐紀	医師	(金沢循環器病院)
	櫻井 孝之	医師	(市立輪島病院)
	原 麻衣子	看護師	(県立中央病院)
	片岡 千尋	看護師	(県立中央病院)
整形外科	庭田 満之	医師	(公立松任石川中央病院)
	上 郁夫	放射線技師	(市立輪島病院)
	口田 良美	看護師	(県立中央病院)
内視鏡	辻 国広	医師	(珠洲市総合病院)
	小島 久広	看護師	(市立輪島病院)
受付	大箱 泰子	看護師	(県立中央病院)
	土本 真吾	課長補佐	(県庁医療対策課)
	新屋 直人	専門員	(県庁医療対策課)
	藤拔 貴久	主事	(県庁医療対策課)
雑務	津山 翔	医師	(舢倉診療所)

5. 受診状況

日時	耳鼻科	眼科	内科	整形外科	胃カメラ	総受診件数
8月1日(土)(人)	23	58(※2)	32	20	15	148
8月2日(日)(人)	9	10	9	10	10	44
合計(人)	28	68	41	30	25	192
19年度(人)(※1)	28	71	21	(20)(※3)	29	149

※1 平成20年度は天候不良にて日帰り診療となり、比較不能なため、平成19年度の資料を参照とした。

※2 受診希望のあった学童1名は除く。

(検査により今後検査嫌いになる可能性もあり、山村先生のご判断で今回は見送ることとなった。)

※3 整形外科診療は平成20年度より実施。平成20年度1日目のみの受診者数。

平成19年度総受診件数には含めていない。

各科の受診件数を上記に示した。平成19年度との対比では内科で増加、その他の科ではほぼ横ばいであった。内科受診者の増加が著明であったが、循環器疾患に不安を持つ方が多かったことを示すもと考えられる。胃カメラは若干数減少しているが、ほぼ横ばいとみてよい。平成19年度の反省点から1時間の検査予定件数を5件から4件に減らしたが、希望者には全員施行できた。眼科も受診者数は、ほぼ昨年と変わらないが、平成19年度の人数は巡回診療での診察を加えた人数であるのに対し、今年度は巡回診療を実施せず、純粋に診療所にて受検した人数である。耳鼻科はほぼ例年通りで変化はなかった。整形外科は昨年度が日帰り診療で20人という受診数であったが、今年もそれとほぼ同じ割合の人数であったとみられる。昨年度未受診の方が多く見受けられた印象であった。診療内容を含め詳細は以下にある各科の診療内容の項目を参照されたい。

図1に男女別受診件数を示した。女性は男性の約2倍の受診件数である。胃カメラ以外、全ての科で女性が男性を上回った。全島住民の人口比でみると男女比はおおよそ4:6程度で女性が多い。この受検者数は各科人数を単純に合計した延べ人数であり、複数科受診者は考慮していない。が、それを鑑みても、やはり男性の受診率が低いということになるであろう。男性の健康に対する意識の低さを反映していると考えられ、今後、今回未受診者を受診へと結び付けるよう働きかけていく必要がある。

図2に年代別受診件数を示した。これも延べ人数を示しており、単純に比較はできないが、70代の受診率の高さが目立つ。高血圧を含めた循環器疾患、肩腰膝などの整形外科的に不安を抱えた方がこの年代に多いことを反映しているものと思われる。全島民でみると高齢社会ではあるものの、30代~50代で全島民の約30%を占めることも事実である。この年代の受診率をいかに上げるかが今後の課題であろう。

图1 平成21年度 各科男女別受診件数

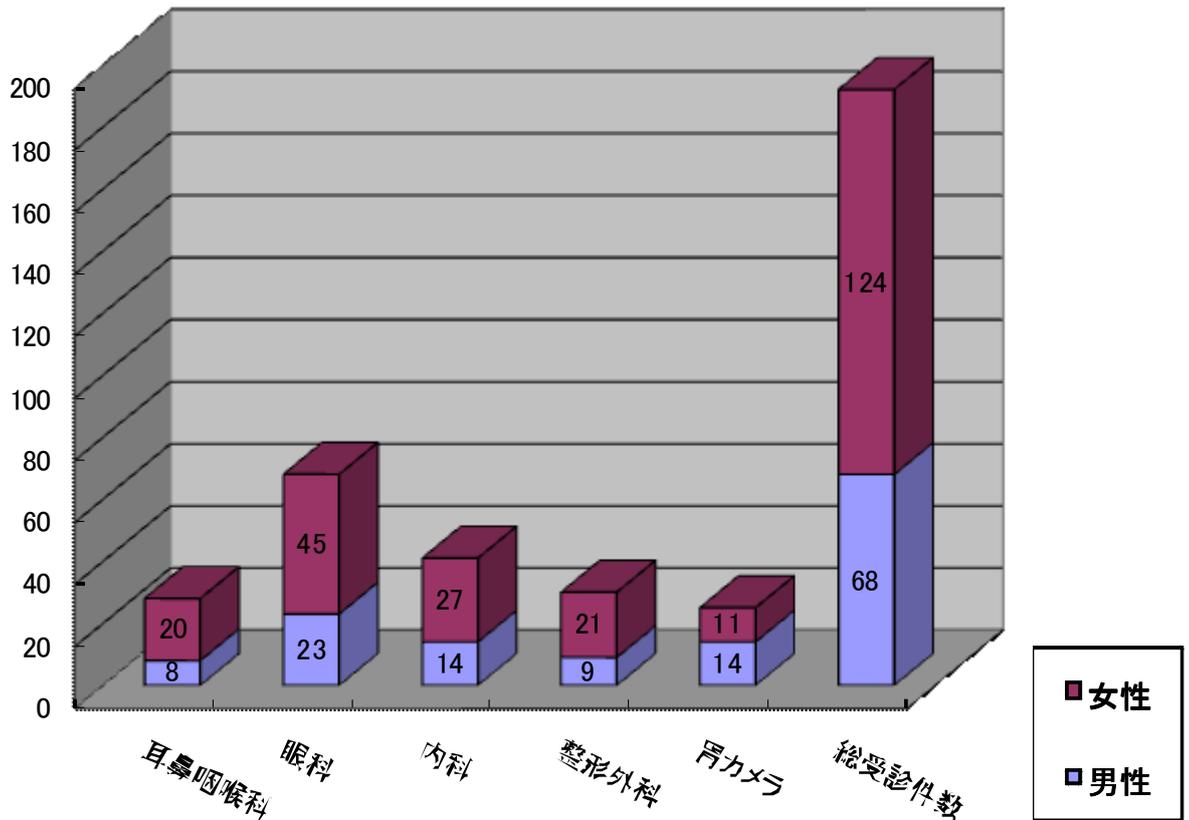
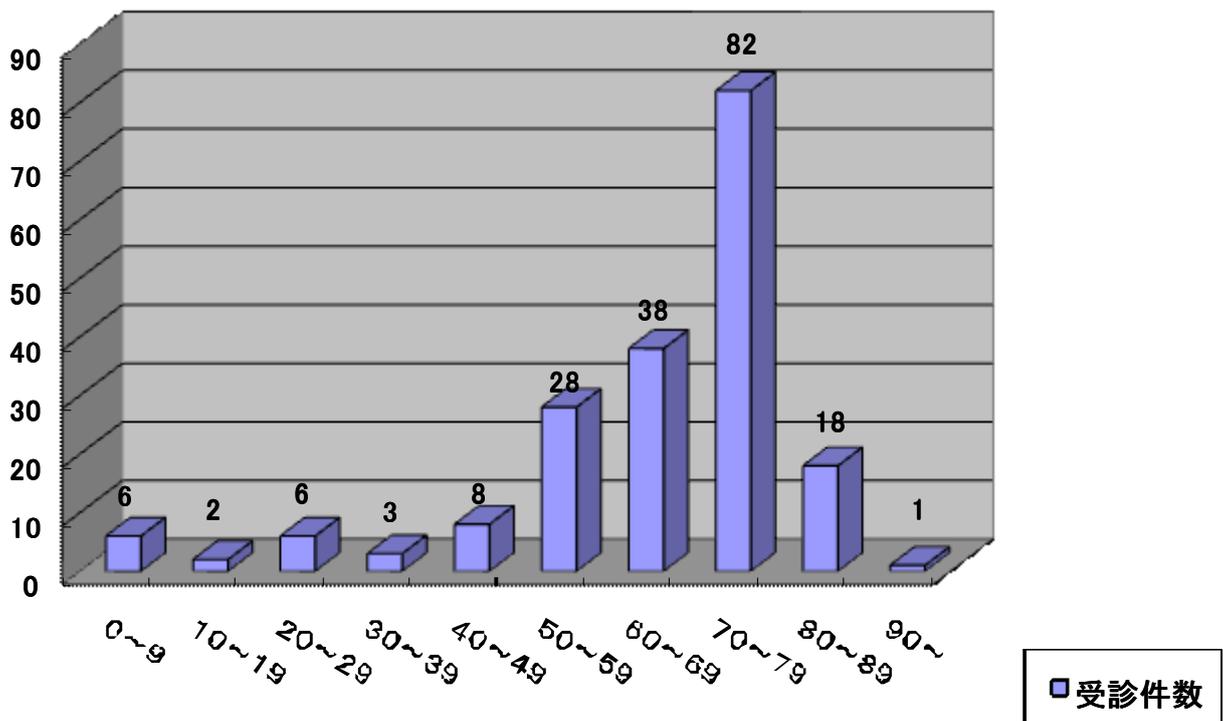


图2 平成21年度 年齢別受診件数



6. 各科診療内容

<耳鼻咽喉科>

毎年この総合診療に参加していただいている小森医師に今年も耳鼻咽喉科診療を行っていただいた。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舩倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤー（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、ほとんどの海女が使用するようになり、サーファーズイヤーの進行は止

まり、外耳炎はみられなくなったとのことである。しかし依然として海女の耳鼻咽喉科領域の訴えは多く（鼻が通らない、耳抜きすると痛い、耳が痛い、聞こえにくいなど）、年に1回の耳鼻咽喉科検診は非常に重要なものとなっている。

28名の受検者の内、何らかの所見を認めたのは15名（54%）であり、その内、後日耳鼻科受診を推奨されたのが3名、処方が必要としたのは4名であった。疾患の内訳は急性中耳炎、外耳炎、ポリープ様声帯、声帯ポリープ、嗅覚障害、口腔咽頭乾燥症、耳垢塞栓、耳鳴などである。専門的な処方とアドバイスを頂き、大変有意義であった。また、耳鼻科の特徴として0-9歳の乳幼児・学童の受診数が6人（耳鼻科受診者の21%であり、同年代の受診者は全員が耳鼻科受診者）と他科と比較して目立った。学童以下の子にとっては日頃から耳鼻科関連の悩みが多く、その対処法も所長自身の悩みでもある。親にとっても専門的診察が受けられることはとてもありがたいものであるとの声が聞かれた。本年度はオーディオメーターを用いた聴力検査の対象者はいなかった。



小森医師

<眼科>



山村医師

本年度も山村医師に眼科診療に担当していただいた。今年は、センター内事務室を新たに暗室とし、最新の無散瞳眼底カメラを借用していただき、診療に導入していただいた。撮影にかかる時間はものの30秒程度で、散瞳にかかる時間が不要であることに加え、以前薬剤アレルギーなどで散瞳眼底検査ができなかった方も眼底を観察できるというもので、過去にない画期的な検診となった。島民の方々にも目薬をさす時間が省けて気軽に受診できた、他科の待ち時間に受診できた、撮影に伴う残像も少なかったなどで、大変好評であった。

受診を勧められたのは4名であり、その他要経過観察者が7名であった。受診推奨の内訳は両眼網膜症

の軽度進行、緑内障性変化、視神経乳頭陥凹拡大、黄斑部網膜前膜であった。要経過観察者は以前より網膜症などの指摘を受けている方が主であるが、今回、新たに進行が見られたものはいなかった。眼瞼炎、結膜炎で点眼薬の処方を受けた方が2名いた。また、あらかじめ高血圧や糖尿病を持った方は必ず受診いただくよう広報していたが、その中で若干名受診されていない方もいた。散瞳薬を使用していた昨年度までと違い、今回の形式の検診では、診療所に足を運びさえすれば、気軽に短時間に検診可能という大きなメリットがある。来年以降も是非継続していただけたらと思う。今後、早期発見早期介入につなげていくために、年齢層問わずに、いかに受診率を上げるかが、所長に課せられた課題である。

<内科>

内科診療では循環器内科診療と位置づけして、金沢循環器病院副院長堀田医師に担当していただいた。島の高齢化に伴い、循環器疾患合併者が多く、疾病や処方が複雑化しているため、専門的視点からの検索とアドバイスが必要と思われたためである。市立輪島病院櫻井医師には堀田医師の診療補助についていただいた。事前に受診希望の島民の方々には胸部レントゲン撮影を撮影していただき、それをJPEGファイルに変換し、当日ノートパソコンの画面上で参照頂いた。また、当日は、血圧測定と心電図検査を全例施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例通常診療カルテを参照いただき、アドバイスをいただいた。有所見者には心エコー検査を施行し、精査いただいた。

41名の内科受診者の内、異常なしは9名のみであった。内服追加が必要な方も含め、要経過観察25名、要精査が7名であった。中には肥大型心筋症と診断された方や、心エコーにて心機能低下を認め、心臓カテーテル検査が必要と判断された方もいた。近日精査予定である。また前もって撮影した65



名の胸部レントゲン写真の読影も行っていただいた。胸部異常陰影での要精査は5名であった。要精査の方には市立輪島病院にてCT精査をしていただく予定である。また、心臓弁膜症症例が、疑い例を含め多数指摘された。今回、機械の不都合で詳細評価は不能であったが、機械のメンテナンス後、再度精査を行っていききたい。堀田医師からの指摘で、冠動脈疾患に関しては負荷心電図を施行する必要がある、事前にリスクのある人に負荷心電図を施行し、検診当日見ていただくというスタイルがよいと思われる。来年度以降考慮いただければと思う。所長自身も日頃の診療内容を省みるとてもよい機会となった。

<整形外科>

整形外科診療は、公立松任石川中央病院の庭田医師にお願いした。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多いにも関わらず、各個人に的確な治療及び生活上のアドバイスが行えていないと思われたため、昨年度から実施されたものであるが、昨年診療が島民の方にも好評であったこともあり、引き続き庭田医師にお願いしたものである。レントゲン室で問診を行い、その場でレントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意をアドバイスしていただいた。

レントゲン撮影は市立輪島病院の上郁夫技師長にご参加いただいた。計15名の整形外科撮影を施行し、

質の高いレントゲン撮影を実施することができた。日常診療中では、所長自身やはり上手な撮影ができな
いこともあり、教わる部分が多かった。

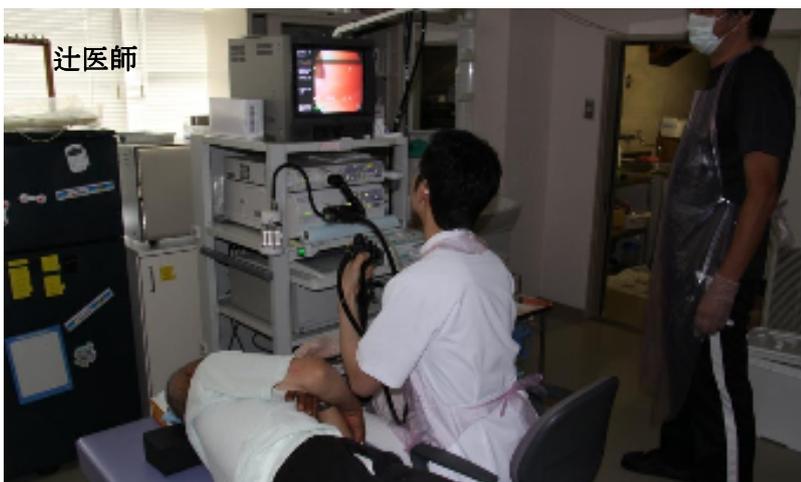
昨年はシケで1日診療となり、希望されていても受診できなかった方がいたこともあり、昨年に引き続
き、多くの受診があった。受診者は計30名で、
変形性腰椎・股関節・膝関節症、椎間板ヘルニ
ア、腰部脊柱管狭窄症、胸椎圧迫骨折、腰椎分
離症、肩関節周囲炎、ドゥケルバン病、滑液包
炎などの異常を認めた受診者がいた。指屈筋腱
断裂が疑われた方や変形性股関節・膝関節症に
対して手術適応と判断された受診者もいた。計
9名に対し関節注射などの処置を行った。詳細
なりハビリ指導なども含め、専門的アドバイス
は受診者にも好評であったし、島民の満足度も
高かった。ここ数ヶ月以内の外傷歴、整形外科
受診歴のある方が受診され、受傷時から現在ま
での情報が不明な状態で診察となる事態があっ
た。日常診療カルテを出すなどの工夫をすればよ
りよかったと思う。



<上部消化管内視鏡検査>

上部消化管内視鏡検査は珠洲市総合病院辻医師、また物品準備を県庁、県立中央病院、市立輪島病院小
島看護師に全面的な協力をいただいた。また当日準備に小島看護師、大箱看護師の他、口田看護師にもご
協力頂き、スムーズな準備ができた。本年度は業者にご協力頂き、光源、ファイバー共に例年以上に充実
した設備を整えることができた。被検者の苦痛も少なく、満足度の高い検診となった。

25名の受検者の内、7名に生検を施行、内1名は悪性腫瘍が発見され、加療予定である。また、3ヵ月
後再検が1名、胃粘膜の萎縮性変化が強くピロリ菌感染を疑う方が4名程度いた。感染疑いの方には、採
血検査にて確認予定である。人数的には19年度よりやや減少し、スムーズに準備・検査が進んだため検査



時間的にはまだ余裕もあったようだ。しかし、ファイバーの洗浄時間がかかることを考えて、適当な人数であったのではないかと思われる。上部内視鏡という検査自体、侵襲的な検査であり、緊急を要する不慮の事態が生じるリスクは低いながらも常に存在する。また光源やファイバーの機器の都合上、離島で行う以上、画質などには限界がある。しかし、島の方々のニーズは高く、また今回悪性疾患が発見されたことも考えると意義は十分

にあると考えられる。現在の検診レベルを考えても、今回準備いただいた機器は満足いくものだった。島で検査を行うことに伴う様々なリスクを島の方々にも今後も十分に説明していき、理解をいただく必要がある。また辻医師から、近年の傾向として大腸癌が増加傾向にあり、検診として便潜血検査なども考慮してもよいとのご指摘をいただいた。輪島市の検診事業とも合わせ、来年度に向けて今後要検討である。

7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、2 日目および来年度以降にむけて様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見である。来年度以降の実施に考慮していただきたい。

○受付時の問題：1 日目の受付時にやや混乱した。→受付から受診までの流れを、受付担当者や看護師のみならず、島民の方に対してもあらかじめ周知が必要。番号札で整理を行ったが、複数科受診の方の中には、他科受診中に番号を抜かされた、と不満が聞かれたこともあった。中には待ち時間が長くなり、1 日目の 13 時に来所し、17 時に受診が終了し帰られた方もいらっしまった。人が多いからと受診を遠慮される方もいらっしまった。待ち時間が長くなることが予想される科ではあらかじめ予約制や整理券制などにした方がよいのかもしれない。しかし、事前予約とするからには希望者が全員受診できるようにする必要もある。受診順を決めるなどに一工夫が必要だろう。

○輪島市の検診：輪島市では現在検診率を上げるため色々策をこらしているが、この総合診療を利用して、市の検診も同時に行うことはできないか。島民にとってもよいことと思う。→県と市との調整が必要。特定健診を行うには健診項目が多く、マンパワーと設備上の問題が残る。また島の特定健診対象者は限られているため（後期高齢者が多く、また何らかの加療を受けている対象外の人が多い）特定項目に関して検診するのが現実的か。（大腸がん検診など）いずれにせよ市の検診内容・検査項目と整合性がとれる必要があり、綿密な調整が必要。また市立輪島病院や市医師会などとの調整も必要になってくるだろう。

○保健指導：待ち時間の間などにセンター内で保健指導ができるのではないか。→人員とスペースがあれば可能。所長としては是非行っていただけたらと思う。特に栄養指導などは高血圧、糖尿病罹患者が多く、ニーズは高いと思われる。調理指導なども考えるのであれば、現在使用されていないセンター内調理室の整理改装も必要か。総合診療時のみに関わらず、保健師さんに協力頂き、今後、診療所で講習会などを開催できればと思う。→日程などを現在調整中

○設備上の問題：内科診療でベッド数が足りなく急遽保育所の机などで手作りの台を作成した。また、待合のソファが柔らかく深すぎるため 1 人で立ち上がれない島民が数多く見受けられた。ベッド、パイプ椅子は既に全て使用してしまっていて対処できなかった。→市立輪島病院に椅子やベッドの余裕があれば譲っていただくようお願いする必要あり。内視鏡洗浄室の換気扇が壊れていた（扇風機で何とかしのいだ）。→来年度に向けて修理する必要あり。

○上部消化管内視鏡検査：島で行うにはリスクある検査であり、継続は可能か。→現在検診として、血清ペプシノゲン測定を導入しているところもある。胃カメラにこだわらず、腹部エコーや便潜血検査など非侵襲的な検査をするのもよいかもしれない。→来年度以降検討が必要。

○将来、当診療所で働くことになる自治医大卒業生の研修医を地域医療カリキュラムの一環として総合診療に参加してもらうことはできないだろうか。よい引継ぎの場にもなるであろう。

→来年度以降、県庁医療対策課を通じて県立中央病院臨床研修委員会と協議が必要。

8. 総括

舩倉島総合診療は今回で27年目を迎えた。これまでこの検診事業が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、また総合診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力いただいた関係各位の熱意、ご尽力によるものである。

今回、新たに無散瞳眼底撮影機が導入され、上部消化管内視鏡も昨年度までと比較し、機器が充実し、またスタッフの方々の協力も得て、質の高い検索を行うことができた。さらには今回、新たに循環器内科診療も実施され、大変充実した総合診療となった。

本年夏季舩倉島住民の人口構成を見ると65歳以上の高齢者が全体の約50%、75歳以上の後期高齢者が約25%となっている。数年前の舩倉島分校休校などの影響もあり、近年高齢化率は上昇傾向にある。本診療の開始された当初と比較し、島の人口は減少してはいるものの、高齢化に伴い、全体としてはプロブレムの増加、疾病罹患リスクの上昇が見られる。また、年齢に問わず島特有の職業として、海女（海士）や漁師として働き続ける方がほとんどであることには変わらない。したがって、風土特有の耳鼻科的疾患に対する診察、眼科、内科、整形外科、内視鏡検査など専門的診療を行う本診療は今後、ますます重要な位置づけになると予想される。また、今回ご指摘のあった保健指導という面からも島民の健康増進のため、今後実施に向けて検討していきたい。

医療や保健など各方面と連携をとりながら、いかに高齢者の複合的疾患罹患者のフォローをこの離島の地で行っていくか、いかに若年者・中年者の受診率を上昇させ、早期発見・早期治療につなげるかが、本診療所長に課せられた今後の課題と考える。

9. 謝辞

本年度も無事に舩倉島総合診療を終えることができました。参加していただいたスタッフの皆様、ご協力いただいた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。この総合診療を通して、島民の方々が自らの健康に対して意識する契機となってもらえれば幸いです。所長自身にとっても日常診療を省みる上でとてもよい機会となり、今後の診療に十二分に生かしていく所存です。また、スタッフの皆様とお会いでき、とてもよい2日間を過ごすことができました。所長そして島民一同感謝しております。

今後とも舩倉島島民の健康増進のためお力添えをいただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

舩倉診療所長 津山 翔



平成 21 年度診療スタッフ集合写真（H21.8.2 診療所前にて）



平成 21 年度診療スタッフと島民の皆さんと（H21.8.2 出航前のニューへぐら前にて）